

週報

こひつじ

第41巻 28号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

イエスのバプテスマ

その二 また、天から声がした。

イエスがバプテスマを受けられたとき、彼に起こったもう一つのこととは、天から声が聞こえたことだ。

「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」

それはイエスに対する神からの励ましの言葉だった。その言葉によって、イエスは自分が神に愛され、喜ばれていることを確信されたのである

この励ましなしには、イエスといえども、この地上の生涯をあれほど力強く生きることはおできにならなかっただろう。

ザアカイは人から軽蔑され、自

信のない生活を送っていた。そんな彼に向かってイエスは言われた。「ザアカイよ。きょう、あなたのところに泊まることにしている」

ザアカイに、こんなやさしい言葉をかけてくれた人がかつてあっただろうか。

それはイエスが、ザアカイのことを特別な存在として考えてくださっているというこの明確なメッセージだった。

ザアカイはこの言葉に励まされ、そしてイエスの愛を確信した。イエスのこの励ましの言葉が、その後のザアカイの人生を全く別のものにしたのである。

人はだれもこのような励ましの言葉なしに力強い人生を生きることは難しい。

長男の耕一は大学を卒業すると西日本新聞社に入った。

ところが記者を希望していたのに写真部に回された。カメラなどいじったこともなかった彼は落胆した。

ちょうどその頃、久住山が噴火した。その取材のため、先輩のカメラマンといっしょに現場に向かい、数日近くのホテルに泊まることになった。

その先輩が友人に電話で話している。

「まいっちゃうよ。カメラの使い方知らないやつといっしょに出張だよ。仕事にはならないし、おもしろいわけないだろう」

それをそばで聞いていた耕一はカチンときて、

「もうこんな会社やめるよ」

と電話を寄こしてきた。だが、翌日には気を取り直して仕事にいたのだろう。

何度かそんなことを繰り返しているうちに、不思議にもその先輩

が親切になってきた。

あるとき、その先輩が友人の記者にこう言っているのを聞いた。

「こいつはね。カメラはまだまだだけど、芯はあるね。いくら怒鳴ってもくじけないんだ」

その後、すっかりその先輩と仲良くなって、親切にパソコンを教えるために寮まで訪ねてくれるほどになったという。

「子どもの頃、お父さんから叱られることが多かったから、多少のことは気にならないんだよ」と彼が言うので、私はたずねた。

「でも、ぼくの言葉で傷つくことはなかったかい」

彼は答えた。

「そりゃ、あったよ。しかし、しばらくすると、お父さんはいつも謝りに来た。まあ、あれが救いだ。それで人はみんな罪人だということがわかって、相手がだれであれ、人に過度な期待を寄せることがなくなつたね。しかし、お父さんはほめるときは、しっかりとほめてくれた。それがなかったら、あるいはほぐだつて、つぶれていたかもしれない」

振り返ると、私は、父親として、

我は咲くなり

決して十分な励ましを子どもたち
与えたほうではなかった。それで
も、私の語ったわずかな励ましや
慰めの言葉が彼の心を立て直すこ
とに役だっていたことを彼は語っ
てくれたのだった。

あるいは、西田幾多郎とともに、
こう言うだろう。

人は人 吾は吾なり
とにかくに 吾行く道を
吾は行くなり

人は人 吾は吾なり

イエスに、

吾は行くなり

「あなたは、わたしの愛する子、

(終)

わたしはあなたを喜ぶ」

という声があったように、聖霊

は、私たちにもやさしく語りかけ、

「アバ、父よ」

○第一礼拝は午前一〇時から、

と神を呼ぶ自由を与えてくださ

第二礼拝は午前一一時から。

るのである。

○教会学校は午前一〇時から。

人はみな神に向かつて、

○説教は米村牧師。

「お父様」

と呼ぶことができたとき、その

魂が安定する。神から与えられた

独自性の自覚が、その人の心に芽

生えるからである。

それからはもう自分を他の人と

比較することはない。むしろ武者

小路実篤とともに、こう言うだろ

う。

人見るもよし、

人見ざるもよし、

人見ざるもよし、

***** 関連教会牧師会報告 (二) *****

らしいことなんです」

とも語ってくれた。

ジョンさんが天に召されたあと
の教会はどうなっているだろうか
と私たちはみな心配していた。

それを聞いて牧師たちはともに
考えた。しばらくでも、みんな
お手伝いできないかと。そこでた
どりついた案は、もし直美さんや
教会の人たちが喜んでくださるの
であれば、月に一度、牧師たちが
交替で、しかも手弁当で、説教の
応援をするのはどうかというもの
だった。

ジョンさんの妻の直美さんの話

直美さんは、その提案にとても
感激してくれた。

によると、長く教会を離れていた

牧師たちはみな思った。ジョン
さんがこれまでやってくれたこと
への、感謝のお返しだと。

人たちが、ジョンさんの告別式を

とりあえず、八人の牧師が一巡
するまで続けようということにな
った。

機に、次々と教会に戻ってきてく

ださっており、礼拝出席者は、以

前よりずっと増えているとのこと

だった。

私たちはその報告を喜び、神様

をたたえた。

「彼は死んだが、信仰によって今

もなお語っている」

とは、ジョンさんについても言

えることだったのだ。

「でも説教はどうしているんです

か」

と問うと、直美さんは答えた。

「録画されたジョンの説教を毎週

聞いているのですが、それもあと

数本で尽きるでしょう」

長女のルツさんは、

「亡くなったお父さんの映像を毎

週見るのは、私にとってはまだつ
